レーザーコンパス

歩　　く

田中昭洋*

Akihiro TANAKA*

会合やパーティーに出ると，必ず話題になるのが健康とゴルフの話である。健康食品やら持病やら，よくまあいろいろな知識をお持ちだと，他人事のように感心していた。

ところが，2年前の健康診断で糖がひっかかった。「ちょっと数値が高いだけですよ。」と主治医に言われたものの，頑健と若さをキャッチフレーズにしてきた私には，これは大変なショックだった。

ふり返ると，近頃歩く機会がめっきり少ない。ゴルフの飛距離の伸び悩みは，足腰の衰えかもしれぬ。食事も不規則だ。と，一転気になることばかりに心が及ぶ。

速歩による「散歩」を始めたのは，そんな2年前のことである。休日の朝，自宅近くの多摩川沿いの道を，時には3時間も歩く。

少し汗ばみながら，ひたすら歩く。河川敷でひたむきにボールを追うサッカー少年，颯爽と自転車で駆け抜けて行く若い娘たち，季節を告げる野辺の花，鳥の声。多くのものが見えてくる。乱雑に積み重ねた日常の中で，おき忘れ見過ごしてきた小さな発見が新鮮で，飽きることがない。

三日坊主のはずが，今日まで続き，糖は正常域にある。ゴルフも，若いとき以上に飛ぶ。娘には「体が引き締まったね」とほめられる。一石何鳥もの効用である。

最近，企業は厳しい経済環境の中，リストラだ，リエンジニアリングだ，変化への即応だと，肥大した組織をスリム化し，経営の足腰を鍛え，硬直化した組織に活力と柔軟性を回復することが求められている。

今年の春，社長職について最初に社内に要請したのは，「現場主義」であった。

「時には席についてくれ。」といわれながら，多摩川の散歩同様，ひたすら現場を歩く。

お客様も現場なら，製造ラインや研究開発の職場，業界の集まりも私には「現場」である。

自分の足と目でお客様の声を聞く。さまざまな会合にもつとめて出席する。営業の現場で，技術の現場で，生の息づかいを感じながら一緒に議論をし，汗をかく。

山と積まれる書類や報告からは見えてこない数多くの発見が，発想の幅を広げ，奥行きを深め，新しいエネルギーと好奇心を生む。「歩く」効用である。

ウシオ電機の主力工場がある姫路に，「白鷺城」と呼ばれる名城がある。外国からのお客様を案内して，時々，天守閣に昇る。東西南北の四面に開かれた窓からは，播州平野が一望のうちにあり，瀬戸内から遠く四国までが望める。ここが，昔の君主の社長室です。とガイドしたりする。

ウシオには創業以来，「判断は天守閣で，日常はグランドで。」という表現がある。未来を左右する意志決定は，人の石垣で支えられた天守閣の上で，日常の仕事は常にグランドに下り，グランドの目線で皆と一緒に汗をかき，喜

＊ウシオ電機(株)（〒100 東京都千代田区大手町2-6-1）
＊Ushio Electric Corporation (2-6-1 Ote-machi, Chiyoda-ku, Tokyo 100)

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan

びをわかちあう，という心構えである。

常に大局を失わない「高い目線と広い視野」，過去から未来を見据えた「長い時間軸」の中の，着想と決断はリーダーの要締にちがいない。

早すぎる変化と経済の低迷の中で，日本中があえぎ，萎縮しているように見える。しかし，変化があるから新しい事業チャンスが生まれる。幸い，当社を取り巻く「光」を利用した事業の範囲は大きな変化と拡大をみせている。その新しい胎動の気配は現場に満ちている。

グランドに下りて，変化の行く先を，自分の肌で感じ，足で確かめながら，しかし，昨今，このすさまじい変化の激流のなかでは，時折は，ひとり高台に登り，ぐるり四面を眺望しつつ，気宇壮大に思索し，決断する必要を痛感する。

この折り合いを，日常の中でどうつけるか。「現場型」に生きてきた私には，いささかの難問である。

2005 Digital Archive; copyright The Laser Society of Japan